

「よのなか教室」通信が100号を迎えました。

これまで、取材に協力していただいたよのなか先生や学校関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

今回は、100号の発行に際して、吉玉典生さん(前延岡商工会議所 会頭)にキャリア教育への思いを寄稿していただきましたのでご紹介します。

2017年6月26日に最初の「よのなか教室」通信が発行されて100号目となるのですが、延岡市キャリア教育支援センター長の水永様、敷石様そして酒井様の取り組みに心より敬意を表します。「よのなか教室」を主宰している「キャリア教育支援センター」ですが、先ず「キャリア」とはどのような意味でしょうか。これを生成AIに質問してみたところ以下のような説明がありました。



【吉玉 典生さん】

『キャリアとは、単なる職歴や仕事の経験だけでなく、個人の生き方そのものを指す言葉です。』

一般的にキャリアという言葉は、仕事、経歴、就職、出世といったイメージで使われることが多いですが、厚生労働省は「過去から将来の長期にわたる職務経験やこれに伴う計画的な能力開発の連鎖」と定義しています。

キャリアの語源はラテン語の「carraria」で、荷馬車や四輪の荷車の通り道、轍(わだち)を意味し、それが転じて人のたどる行路や足跡、遍歴を意味するようになりました。このことから、キャリアは人の経歴や生涯全体を含む意味を持っています。

キャリアを評価する上では、スキルや経験、職歴、人間性といった要素が重要になります。また、キャリアは仕事と人生の交点であり、人生の目的と密接に結びつくものでもあります。』

人間として生まれてからの一生は、それぞれのキャリアとなります。日本においては、生まれて成長する中で、先ずは家庭、次に学校やその他の学びの場で基本的な知識を習得し、自らの経験と書籍や先輩方の経験談を聞くことにより自分の人生を考え、どの様な職業につき、どの様な生き方をするかを考えていきます。人生の積み重ねそのものが「キャリア」となります。

先輩方の経験談を聞き、「ひなた場」としての「人生対話」や「人生紙芝居」などの「よのなか教室」での経験は、参加している学生たちにとって、自分のキャリアを考えるうえで大いなる参考になるものではないでしょうか。これまで人間社会は原始的生活から様々な道具を発明し、現在は素晴らしい文明に囲まれての生活を営む事が出来る様になっています。

これまでも特に18世紀後半から19世紀にかけてイギリスで始まった産業革命以来、技術と社会構造が大きく変革しました。近年、インターネットや生成AIが社会に導入されるにしたがって、その変化はより加速度的になってきています。そしてこれからはVUCA (Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性)の時代と言われ、これ迄より一層将来の予測が困難で、既存の価値観やビジネスモデルが通用しにくくなっていく。その様な時代を生き抜くためには、柔軟性や変化への適応力、そして論理的思考力や問題解決能力が求められる、と言われていきます。

その様な変化の時代にどの様なキャリアを積んでいくか、現在われわれを取り巻く様々な仕事を知り、これからの激しい変化を想像して考えることが重要だと思います。キャリアを踏み始めた児童・生徒の皆さんに、様々な方々がそれぞれの職業を紹介し、これからの社会の変化についてのお話を提供して下さるキャリア教育支援センターの活動は、素晴らしい内容となっています。小学生、中学生そして高校生の皆さんに、それぞれのキャリアを考える機会を、これからも創り続けて頂きたいものと思います。

これからの激しい変化に対応しながらキャリアを積んでいく中でも、「何のために生きているのか」「自分の幸福は何によってもたらされるのか」と言った課題をしっかりと考えながら生きていきたいものですね。

方財小学校 (5・6年生・9名) よのなか教室「俳句を楽しもう」

令和7年7月10日(木)
10:20~11:05



【赤藤 忠さん】

方財小学校の5・6年生が、俳句についての講話を聞きました。講師は、赤藤 忠さん(若鮎俳句会：会長)です。

赤藤さんは、初めに俳句についての基本的な説明をされました。その後、歌手の吉田拓郎が作詞、作曲した「夏休み」という曲を子どもたちに聞かせ、拡大した歌詞を提示して、この歌詞の中に入っている季語を考えさせました。子どもたちは、「夏休み」「せみ」「ひまわり」など、たくさんの季語を発表しましたが、楽しみながら、俳句の中の季語の重要性を学びました。

俳句を作るときに大切なことは、「よく観察する」「特長を見る」ということも教えていただき、具体的な例を示していただきましたので、子どもたちは、より、俳句への関心が高まったようです。

授業の最後に、実際に俳句を作る活動がありましたが、出来上がった作品を発表する子どもたちの満足した表情がとても印象に残りました。

📧 ~お礼の手紙より~

ぼくは、赤藤先生に俳句のことを教えてもらって嬉しかったです。最初に「夏休み」という吉田拓郎さんが作った曲を流してくれて、ぼくは、この曲を聞いたときに、「いい曲だな」と思って、歌っていることが頭に浮かんでくるくらいでした。

次にひまわりの俳句をみんなで考えてみようという時間でしたが、ぼくは、あまり思いつきませんでした。その後、赤藤先生が、黒板に、「ひまわりや 幹は細いが 力持ち」と書いて、ぼくは、それを見て、やっぱり赤藤先生は、すぐいろんな俳句が頭に浮かぶなんてすごいと思いました。

最後に、みんなで俳句を作る時に、赤藤先生が、7月の季語が書いてある紙をくださったのを見て、こんなに7月の季語があるんだなとびっくりしました。

いろいろなことを教えてくださってありがとうございます。これからも、よい俳句を作っていきたいと思いました。



【講話の様子】

西階中学校 (1年生・126名) よのなか教室「福祉について学ぼう」

令和7年7月18日(金) 13:55~15:45

西階中学校の1年生が、総合的な学習の時間の一環で、「福祉」についてのよのなか教室を行いました。4名の講師に講話をしていただき、生徒は、2名の講師の方のお話を聞きました。

<講師の方々>

押川 敬視さん(めだかファミリーグループ：代表取締役)
吉岡 由華さん(訪問介護サービスななせ：代表取締役)
正岡 義勝さん(松山保育園：園長)
尾崎 俊太郎さん(ゆめの木訪問看護ステーション：管理者)



【押川 敬視さん】



【吉岡 由華さん】



【正岡 義勝さん】



【尾崎 俊太郎さん】

地域の福祉に携わっておられる方々のお話は、大変貴重なものでした。「仕事をする上で大切にしていること」「大変さもあるが、喜びも多いこと」「なぜ、この職に就いたのか」など、具体的にお話していただきました。そして、自分が住んでいる地域への理解を深め、これから将来の進路や自分の生き方などを考える生徒にとって、とても参考になる内容でした。

延岡市キャリア教育支援センター

〒882-0053 宮崎県延岡市幸町3丁目101番地 延岡駅西口街区ビル3階 延岡商工会議所内
電話 0982-33-6666 FAX 0982-33-6682

水永正憲 ☎ 080-4002-8167
✉ mizmas228@gmail.com

敷石輝幸 ☎ 080-6410-5539
✉ sate815@ma.wainet.ne.jp

酒井康行 ☎ 090-2587-7837
✉ y351akre@ma.wainet.ne.jp